

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：鹿児島県奄美市

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：バイオマスを活用した液肥製造			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>外海離島である奄美大島にある本市においては、たい肥及び化学肥料の大半を島外から調達している状況である。そのため、島内で排出される有機物系廃棄物（バイオマス）を活用した液肥（消化液）を製造することで、地力向上のための資材の地域内自給率の向上を図る。</p> <p>このことにより、現時点ではほとんど価値をなしていない、地域内廃棄物資源の付加価値化という課題を解決し、地域資金流出抑制を図る。</p>	①なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>おおよそのバイオマス資源量は統計資料等から推計出来るが、事業化に向けてはさらなる詳細調査が必要。</p> <p>また、事業化に向けたイニシャル・ランニング試算など、採算性が未算定。</p> <p>さらに、反当たり液肥散布可能量の詳細検討及び需要確認が必要。</p>	
	②どの地域資源を活用するか		生活系廃棄物（生ゴミ等）、産業系廃棄物（黒糖焼酎廃液）、農業系廃棄物（家畜ふん尿）等
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）		食品由来を中心とする地域内有機系廃棄物から生み出される「液肥（消化液）」
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）		バイオマス活用事業者（本事業を契機に座組を目指している。）
	⑤この事業により地域内で何が循環するかまたはどのような循環が起こるか		資金（島内での液肥（消化液）の生産・供給→島外調達の減+廃棄物処理コストの逆有償＝地域外流出資金の抑制） 廃棄物（家畜ふん尿→堆肥化→飼料作物増産→島内粗飼料調達向上→家畜増産）
		<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>○消化液の有効性を明らかにするとともに、生育への影響を検討出来る研究機関</p> <p>○バイオマス活用に向け、事業化及び適切な機器選定並びに地元への技術継承を可能にするコンサルティング会社</p> <p>○幅広い資金調達のノウハウをもつ専門家</p>	

2 事業名称：バイオマスを活用した電力事業			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>家畜ふん尿や黒糖焼酎廃液などの産業から廃棄されるバイオマスや、一般家庭・事業者等から排出される生ゴミなどのバイオマスを活用し、地域における電力事業の創設を目指す。</p> <p>このことにより、地域内に新産業を創出し、エネルギーの地産地消及び既存の廃棄物処理コストの圧縮による地域資金流出抑制を図る。</p>	①なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>おおよそのバイオマス資源量は統計資料等から推計出来るが、事業化に向けてはさらなる詳細調査が必要。</p> <p>また、事業化に向けたイニシャル・ランニング試算など、採算性が未算定。</p> <p>事業化に向けて、地域内企業が連携する場合には、その出資割合等の検討も必要。</p> <p>バイオガス発酵に向けては温暖な気候を活かした優位性も想定されるが、液肥（消化液）保存のコスト等は未算定。</p> <p>生ゴミの効率的な収集システムの構築</p>	
	②どの地域資源を活用するか		生活系廃棄物（生ゴミ等）、産業系廃棄物（黒糖焼酎廃液）、農業系廃棄物（家畜ふん尿）等
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）		食品由来を中心とする地域内有機系廃棄物から生み出される「液肥（消化液）」
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）		バイオマス活用事業者（本事業を契機に座組を目指している。）
	⑤この事業により地域内で何が循環するかまたはどのような循環が起こるか		エネルギー（熱、電気）、資金（廃棄物処理コスト）、有機系廃棄物
		<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>○バイオマス活用に向け、事業化及び適切な機器選定並びに地元への技術継承を可能にするコンサルティング会社</p> <p>○幅広い資金調達のノウハウをもつ専門家</p> <p>○ノウハウを提供出来る地域電力事業者</p>	

3 事業名称：ゴミ減量に向けた機運醸成事業			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>上記にあげた2つの事業のタネの実現のためには、安定した有機系廃棄物の確保が必要となる。また、バイオマス活用の先進地においては、食品廃棄物（生ゴミ）の投入によるゴミ排出量の削減や発酵効率の向上が進められているところである。</p> <p>また、世界自然遺産登録が大いに期待され、観光来訪等の増加も見込まれる中、新たに発生するゴミ処理コストの増大は行政的課題であり、ゴミ排出量の削減やゴミ資源化率の向上は、本市環境分野においても課題となっている。</p> <p>そのため、市民に身近なリサイクルの取組を進めることにより、リサイクル意識を向上させ、ゴミ減量に向けた機運を醸成する。</p>	①なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>本市においては、現時点で生ゴミの分別収集は実施されておらず、一足飛びに分別を実施することは困難な状況である。そのため、まずは身近なリサイクル品の収集や、フードドライブなどの取組を進め、意識醸成を図りたい。</p> <p>また、生ゴミの分別を実施する上においても、回収方法等に課題がある。</p>	
	②どの地域資源を活用するか		家庭で廃棄される一般廃棄物など
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）		ゴミ減量に向けた意識醸成を図るイベントの開催等
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）		行政（奄美市役所）及び関連する民間団体
	⑤この事業により地域内で何が循環するかまたはどのような循環が起こるか		廃棄物（焼却→バイオマス発酵原料）
		<p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>○生ゴミの効率的な分別収集事例をもった行政職員</p> <p>○民間主導でリサイクルイベント等を実施する実績をもったユソモノ</p>	